

入賞作品紹介

⑨

新聞と僕

会津若松市 鶴城小6年 渋谷 澁谷 脩太君

ぼくは毎朝、新聞を読んでいます。毎朝、新聞を読むとたくさん情報や多くのなせやどうしてが産まれてきます。たとえば、一一〇番の通報は二割が緊急性がないことが分かったり、世界の十人に一人が飢餓状態になっているというニュースがあったりなど、おどろきの情報がたくさんあります。

この情報が毎朝、ぼくの所に届くには、欠かせない人がいます。それは、バイクで新聞を届ける人です。雨でも、雪でも、どんなに寒くても、新聞を待つぼくのために届けてくれます。そのおかげでぼくに、たくさん情報が届きます。

では、この情報にはどのような「良さ」があるのでしょうか。それはまず、自分の気になる所を読むことができます。もしも、テレビでニュースを見る時は、気になる所でない所も見ないといけません。また、繰り返し見るには、録画をしないで見ることができません。しかし、新聞は違います、ページをめくって行って気になる記事があるとぼくは、くわしく読みます。また、ぼくは自主学習で「なぜ」ということについて記事を読んだり、スクラップしてノートにはってその記事を読んだ感想を書きます。このように、気になる記事を読んだり、スクラップして

て繰り返し読んでくわしく理解できるという、新聞だけの「良さ」があります。

このようなことから、ぼくはまず毎朝新聞を届けてくれるバイクの人に感謝したいです。そして、このような多くの良さがあふれる新聞を読み続けたいです。

家族と新聞

母 渋谷 美枝さん

毎朝小六の息子の友達を迎えに来るのを待つわずかな時間が、私達親子が新聞とふれ合う時間で家へ届く小学生新聞の四コママンガをチェックし、その後ニュースや

色々な記事の中から興味をひかれたものを一緒に読んでいきます。驚きや笑い、悲しみ、怒りなど色々な感情そのままに他の愛のない話をするのが毎朝の楽しみです。私と息

子では興味のわく記事も持つ感想も違うので、短い時間ながらも息子の考えを知る貴重な機会になっています。

また、難しい言葉や記事の内容で、「これは何？」「なぜ？どうして？」と質問されることもあるので油断できず、私も勉強になったり、考えるきっかけをもらえたりします。先日流行語大賞の記事を読み、「村度(そんたく)って何？」と聞かれました。私の中でマイナスのイメージがある言葉だったので返答に固まってしまいました。後から調べてみると「他人の

気持ちや推しはかると」とあり、単純に相手の心を推測し配慮するという意味の言葉だと知りました。目からウロコが落ちる思いで、驚きでしたが楽しい気づきでした。そんな経験ができるのも、新聞と息子との朝のひとときがあるおかげだと思いました。

ネットと違い新聞は、自分達の興味のあるなしかかわらず色々なジャンルの記事を読むことができます。おかげで私達親子は毎日飽きずに、朝のおしゃべりや意外な気づきを楽しむことができます。